

# オウム真理教対策住民協議会ニュース

## 新年を迎えて

## 相手を知り考えエネルギーに

明けましておめでとございます。

オウム真理教との闘いも今年で16年目に入り、長年にわたる活動は、住民協議会会員に様々な形で負担となりますが、会員のエネルギーは未だ旺盛で、衰えは見えません。そんな会員の闘う姿の一端が協議会ニュース「オウム真理教と闘い続ける」に掲載されています。二年前より始まった連載は、当初の予想を上回り、昨年の150号で18回目となりました。協議会会員と行政職員が交互に登場し、活動を回想した内容は、読者から予想外の反響があり、その事で協議会会員を励まし、新たなエネルギーにもなりました。

### 外部監査委員会委員長は辞任

148号の協議会ニュースに、ひかりの輪の外部監査委員会についての記事が掲載されています。松本サリン事件で冤罪となった河野義行氏を代表に3年前発足したのですが、発足当初は年4回ほどのペースで開催されていた委員会

鳥山地域  
オウム真理教対策  
住民協議会

で、設立以来行ってきたひかりの輪の活動の多くが、観察処分逃れのための方策だと断定していました。が、今回の事態はその事を証明したようです。

闘いは相手を知り考える事で力となる

が、昨年はほぼ1年間開かれていない事を記事で指摘しました。改めて昨年12月、真意を探るべく編集部がひかりの輪のホームページを確認すると、指摘され気づいたかのように、10月6日突然委員会の開催と、河野委員長の辞任が報告されています。鳴り物入りで始めた外部監査委員会も観察処分逃れには効力がなかった事により、気づいたようです。さらに同記事

住民協議会は5年前まで、アレフ・ひかりの輪の両団体と闘ってきましたが、突然アレフの足立区への移転以来、上祐派のひかりの輪との闘いへと移行しました。アレフは「麻原崇拝」に変化はなく、危険な団体として分かりやすい。一方ひかりの輪は「脱麻原」を標榜し「健康路線」を見せるが、その本性はアレフと同じなのか、それとも違うのか、違うのであるなら何が違うのかを見極めることは、ひ



オウム真理教（ひかりの輪）に対する抗議デモ

## 連載 オウム真理教と闘い続ける⑬ 千葉範子さんより

かりの輪と闘うには重要な課題といえます。表面上は穏健で麻原の教義を否定、教祖を作らない、団体の形態もサークル的で、信者の勧誘は積極的に行ない、家族との関係性を保つたまま活動を続けるなど、以前のオウム真理教との違いをアピールしています。にわかには信じることが出来ないが、見過ごす訳にはいきません。さらに相手を知るには、ひかりの輪の代表が上祐史浩という事も重要です。地下鉄サリン事件の一方的な釈明会見を始め、数々の策を弄して生き延びて来た

人物で、掴みどころがなく、ひかりの輪を設立した目的への疑問も尽きません。田原総一郎・有田芳生両氏などが上祐に賛同するなど、その人となりが見えにくい人物だからこそ、なぜどうしてとの問が必要で、アレフと同じ、オウム真理教の分派の代表だからと断定することは簡単ですが、ひかりの輪や上祐史浩の本質を知る事で、新たなエネルギーとなるでしょう。今年の住民協議会は、「相手を知り考え力にする」がふさわしいと考えています。(編集部)

平成13年1月9日オウム真理教対策住民協議会の決起集会には、700名もの地域住民が結集し、鳥山市民会館ホールをいっぱいになりました。あのいまわしい地下鉄サリン事件で、罪もない人々を殺害し、苦しめた宗教団体とは名ばかりのテロ集団が鳥山に住みつくなど、許せることではないと立ち上がったのです。そして4月30日には第1回となる抗議デモと学習会が行われました。当時は右翼の発砲事件があったり、連日マスコミがGSハイムを取り囲み大きな騒ぎが続きました。テレビに映し出される様子に、家族からはそんな危ない活動にかかわるのはやめてくれ！と言われたこともありましたが、それでも私の活動を続ける力を萎えさせる事はありませんでした。自らの安全は自らの手で守って行く、自分たちが行動を起こさなければ、未来ある子どもたちを守る事も出来ない、PTAと手を組む事に繋げていったのです。平成28年2月で152号となります住民協議会

ニュースも、良くここまで続けられたと思います。オウム信者の動向把握のため、そして住民協議会の活動や情報発信のためと、最近是他団体との連携という目的もあります。名古屋から仙台まで、オウム信者の居住する現地取材を行い、根強く秘かに行動し続ける信者たちに恐れを抱く事もありました。大勢の人々の協力による監視活動も、ここまで続ける事が出来ました。何よりも組織作りの始めからそのノウハウを教えてください。ただ、力を貸してください。行政には感謝しています。15年ずっと中心となって活動を続けて来てくれた、鳥山上町会婦人部の皆さんありがとうございました。いつ終わるともない、オウム真理教解散・解体の活動は、これからも続ける事と、地下鉄サリン事件など、あつてはならない過去を風化させないように次へ繋げる努力をして行く事も大事です。さて、私はどのくらい続ける事が出来るでしょうか？この活動の世代を繋げて行く事が課題です。



第10回

# リサイクル

新品  
いっぱい

## バザー

4月9日(土) 午前10時

物品提供  
お願いします

烏山区民センター前広場

### 1) 物品受付日時と場所

- ・4月1日(金) 午前10時~12時 烏山区民センター 3階第6会議室
  - ・4月3日(日) 午後1時~3時 烏山区民センター 3階第6会議室
  - ・4月5日(火) 午前10時~12時 烏山区民センター 3階第6会議室
  - ・4月7日(木) 午後1時~3時 烏山区民センター 3階第6会議室
- ※駐車場は烏山区民センターにはありません。

### 2) 受付物品

- ・日用品(石けん、タオル、シーツ、陶器類、乾物類など)
- ・衣料品(子供服、婦人服、紳士服など新品、あるいはクリーニング済みのもの)
- ・雑貨(アクセサリ、玩具、ハンドバッグ、靴、時計など)

※物品によってはお受け出来ないものもあります。  
※陶器類・靴は新品に限ります。ご了承ください。

●お問い合わせ：03(3326)1202

## オウム真理教(ひかりの輪)への監視活動は最重要課題

住民協議会では、監視活動、抗議デモ・学習会、署名・募金活動、リサイクルバザー、住民協議会ニュースの発行など、様々な活動を行っているが、その中でも重要なのが監視活動となる。監視活動は、住民協議会結成後最初に行った活動で、オウム真理教(ひかりの輪)からは、最も嫌がられる活動となっている。全国にオウム真理教と関わる組織はいくつかあるが、住民が中心となって監視活動を続けている組織は、現在は烏山地域のみとなった。烏山地域の監視活動は、警察・公安調査庁の三者が個別に行っているが、オウム真理教(ひかりの輪)は、住民に監視されることが最も気になると見える。それを裏付けたのが、今年の夏の住民に対する上祐の対応だ。監視活動をしている住民に対し、大家の私有地を指し「私有地に入るな」「裁判に訴える」などと暴言を吐き、追い出すという行動に出てきた。住民はこれまで当該場所で何年間も監視活動をしてきたにも拘わらず、突然の上祐の言動は、思惑通りに行かない活動や、日常的に住民に監視されている嫌悪感やストレスから出たものであろう。さらに監視活動の効果は思わぬ方向に進展するもので、5年前には総勢40人ほどのアレフ信者が、突然足立区へ移転するという事態にも発展した。オウム真理教の他地域への移転は、住民協議会の本意ではない

が、活動の結果としてそのような事態にもなる。住民協議会の目標は解散・解体であり、それを達成する上でも、監視活動は最重要課題と言える。これまでの監視活動の参加者を数字で見ると、烏山地域のみならず近隣地域から、一年間で約700人、15年間の合計で10500人が参加するという、まさに草の根の運動となっている。一方心配なことは、監視活動に参加する人の高齢化が進んでいることで、今後の継続を考えれば、若年世代の協力が課題となる。急ぎ解決が必要だが、当面は自らの身体を労り無理をせず、出来る範囲の活動を続けることが大切となる。これからも皆さんの厳しい眼差しを、オウム真理教(ひかりの輪)に向けて行く事が大切だ。



ひかりの輪施設前で監視活動

【訂正】151号の「足立入谷のオウム真理教抗議デモに参加」の記事で第5回抗議デモとしましたが、第13回の間違いでした。お詫びし訂正いたします。

## 住民協議会活動報告

12月18日(金) 実行委員会  
1月7日(木) 事務局会議  
1月18日(月) 実行委員会  
1月19日(火) 烏山・給田 合同新年会で募金活動  
1月25日(月) 協議会ニュース152号初校正

2月1日(月) 協議会ニュース152号再校正  
2月2日(火) 事務局会議  
2月7日(日) 中学生のつどい会場で募金活動  
2月8日(月) 協議会ニュース152号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。